

2022年度
事業報告

特定非営利活動法人 就労ネットうじ

ゆめハウス（就労継続支援A型・B型）/みっくすはあつ（就労継続支援B型）

2022年度事業報告と2023年度にむけて

はじめに

2022年度は新型コロナウイルス感染防止の対応と合わせて、刻々と変化する世界的な社会情勢の不安から影響を受ける物価や資材の高騰への対応も加わりました。これは事業所への影響のみにとどまらず、一人ひとりの生活を直撃し生活全般を圧迫する事態が今もなお続いています。

関係団体や行政と連携をとりながら、引き続き必要な対応と支援策につなげていく動きを進めていきます。

法人全体としての活動の幅は戻りつつあるものの個別的な配慮はまだ必要な状況です。

また工賃・賃金額の面からは2020年度と2021年度は大きく影響を受けて減少する時期もありましたが、現在はほぼ同水準まで回復することができました。作業内容も事所毎の特徴はあるものの、制限するのみではなく、できる事を相談し、そこに工夫を加えて変化させてきた結果といえます。また作業以外の活動も工夫のなか実施できた事は次の取り組みにつながる流れとなりました。

情勢としましては、法人としても大きな位置づけとして捉えている障害者権利条約批准後のはじめての審査が行われ、改善勧告が出されたことです。勧告については92項目に及ぶ内容が公表されました。中でも権利委員会が重視した点としては「自立した生活および地域生活への包容」と「教育」があり、強制入院やインクルーシブ教育など国際的な所見が公表されています。

法人としては「労働及び雇用」の勧告についても注目しており、今後の課題として捉えています。

また、昨年12月に障害者総合支援法の改正法が衆参両院で可決・成立し、その後報酬改定チームが検討に入っています。報酬改定は今後の一人ひとりの働く事、暮らす事につながるので引き続き注視していく必要があります。

私たちは共に生きるための社会制度の構築を実践から伝えていく事と、日々の取り組みから知恵を絞り前向きな変化と目の前の活きた実践を大切に、法人が理念とする「ともにある」のもと、活動を継続していきます。

2022年度事業報告と2023年度にむけて

2022年度を振り返るとコロナ禍の中、たくさんの試行や挑戦ができました。日帰り旅行も分散しながら、普段できないことを体験し非常にいい経験になりました。普段の表情とはまた違う一面も垣間見られました。また助成金等にも恵まれ、車両や作業道具の整備ができました。

事業では、社会福祉士・主事の養成実習やボランティア演習、地元の高校での講義の機会を頂きました。コロナに留意しながら例年以上の取り組みになりました。「身近な方に伝える」を大事にし、たくさん発信できたことは経験になりました。

作業では、観光客の戻りが影響し出店販売の機会も増え、うじ・はんどめいどショップの売り上げも増加しました。新たな取り組みとして、肉まんの販売や企業とコラボした自主製品（トートバッグ・Tシャツ・ポーチ・ワッペン）を製作し販売もしました。かんしゃ工房の所在地である宇治小倉マンション公園の草刈り・汚泥の除去などにも取り組みました。また継続して施設外就労や施設外支援の取り組みとして広野公民館清掃、宇治総合庁舎清掃、公園清掃などにも注力して取り組みました。

在宅支援の作業では、エコボールや組紐作業に取り組みました。利用者に提供する作業が滞らないように努め、繋がり続けることで社会的に孤立することなく進めてこられました。

2023年度は、作業収入の確保に向けて、現在の作業内容、作業効率の見直し等、また新規作業の獲得等についても推し進めていきます。

多様な働き方についても、より個々人の想いや願いに対応できるように、日々に柔軟性を持って取り組んでいきます。

みんなで働く喜びを大事にし、相互理解を深め、受容し認めあい、尊敬しあえる職場を目指し、邁進していきます。

かんしゃ工房（就労継続支援B型）

内容

2022年度は、つながりを通して地域との関係性の構築を目指しながら工賃の獲得・清掃作業の継続と改善、新たな作業獲得・生産に意識を向けて取り組んだ。前年度と比べると、施設外での作業拡大や、受注作業もあり作業の収入が増加傾向にあった。そのなかで、新たな自主製品の取り組みとして、利用者とともにオリジナルのデザインを制作し、ワッペン・Tシャツ・トートバッグ・ポーチを作成した。また、企業謝礼品や啓発物品としてブックマーク・つながり鉛筆などを受注し、納品することができました。

エコボール活動でも預かりから納品の循環を継続することができていたが、取り組みチームの変化もあり、関係づくりと継続が今後の課題として残ります。

地域活動では、ローソンでの清掃作業・個人宅での清掃・ポスティングなどを継続して取り組み、小倉マンションでの除草作業・側溝の清掃などを新たに開始し、地域での活動を通して取り組みの拡大につながっています。

受注作業では、SDGs バッジの生産休止などもあり夏頃から継続的な作業の受注には至りませんでした。しかし、SDGs バッジ作業のつながりから、アイスの付属品（角材加工）の作業を受注し、新たに取り組むことができ、つながりの継続と作業の獲得につながりました。株式会社智光からの受注作業についても、様々な場所で販売される製品の仕上げや検品を行うことで、やりがいをもって作業を継続することができました。

今年度の取り組みでは、作業の継続が困難なものや課題もありましたが、取り組みを通じて新たな依頼を受けることもあり、つながりを通して関係性構築の重要性を改めて認識することができました。

作業実績

（工房内）

- ・エコボール納品数：9チーム取り組み/合計2,013球修繕
- ・SDGs 作業納品数： バッジ1,465個/角材穴あけ2,549個
- ・自主製品納品（啓発・景品）：オリジナル菜/ つながりえんぴつ/その他出店販売など
- ・智光（卸売業者）受注作業：ポーチ金具付け117個 / ストラップ梱包1,504個

（施設外での作業）

- ・ローソン清掃作業：除草作業・グリストラップ・ゴミ庫の清掃。
- ・マンション清掃：6月と11月に2回実施。
- ・マンション清掃（新）：新たに側溝とマンション内公園の除草作業を実施。
- ・ポスティング：毎月2回/1回2,500枚委託を受け小倉地域へポスティング。
- ・ホットスマミー（小倉地域のお弁当屋）：小倉地域にてチラシのポスティングを実施。
- ・広野公民館清掃（日常）：週2～3回程度日常清掃を実施。
- ・広野公民館清掃（定期）：毎月第一月曜日にワックスがけ・エアコンや蛍光灯の清掃
ポリッシャーなどを使用した定期清掃を実施。
- ・個人宅清掃：つながりや、チラシを見た方から個人での依頼を受け、清掃や除草作業などその依頼内容に合わせて実施。
- ・平盛デイサービスワックスがけ：新たに依頼がありデイサービス内のワックスがけを実施。

うじ・はんどめいどショップ（就労継続支援B型）

内容

2022年度はコロナ禍でもイベント販売の再開により売り上げが戻り始めました。地域の常連のお客様や、宇治市役所・振興局・オープンカフェ販売でも売上確保につながった。改めて地域の方との繋がりが、お店としての役割、人々が求めている商品を提供する重要性を再認識する機会となりました。

- ・ショップ利用者 5名（月～金：2名、土：3名）
- ・体験（利用者） 2名
- ・社会福祉士養成学生 7名

作業実績

- ・店頭販売
新商品や、おススメ商品の販売、ソフトや綿菓子の販売を行いました。
- ・衛生管理法改正に基づき、衛生管理計画を作成
- ・多様性のある働き方
利用者一人ひとりの「働きたい」という想いに耳を傾け、日々の中で個別に実践しました。
- ・個別支援計画に沿ってショップ体験に来た利用者や、支援学校からの体験実習生、社会福祉士養成学生等のソーシャルワーク実習生の受け入れを実施。一緒に取り組む事で、良い刺激となり、お互いを認め合い助け合うことで、ともに働くことを実践できました。
- ・2023.2月より肉まん蒸し器導入し、肉まん・おやき販売を始めました。

売上平均

- | | |
|---------------------|-------------|
| ・はんどめいど商品（仕入れ商品） | 48,007円/月平均 |
| ・つながり商品（地域の方の手作り商品） | 23,000円/月平均 |
| ・作業所商品（他作業所の手作り商品） | 33,997円/月平均 |
| ・自主製品 | 2,651円/月平均 |

※《年間売上集計表等 別紙資料参照》

売り上げ比較表2021年度・2022年度

2021年度	売上金額合計	2022年度	売上金額合計	売上増減
4月	123,890	4月	192,770	68,880
5月	46,410	5月	125,650	79,240
6月	68,850	6月	68,710	-140
7月	53,370	7月	64,310	10,940
8月	62,650	8月	36,380	-26,270
9月	76,230	9月	129,650	53,420
10月	98,600	10月	252,180	153,580
11月	146,290	11月	228,024	81,734
12月	104,130	12月	248,560	144,430
1月	47,940	1月	56,692	8,752
2月	55,940	2月	101,330	45,390
3月	25,080	3月	143,190	118,110
合計	909,380	合計	1,647,446	738,066

企業内実習 ホームケルン株式会社（就労継続支援B型）

内容

ホームケルン株式会社は社会環境を考え、石炭やコークスの代替燃料であるRPFを製造している会社です。

その企業内工場（2階の安全性が確保されたベルトコンベアー作業室）で、企業資源廃棄物(資源物)の仕分け作業（紙・ひも・ビニール袋・銅線・ねじ・鉄等）の一部を担っています。

基本的な内容は企業の職員から指示をいただき、利用者への作業指導はみつくすはあつ職員が行い、現地までの送迎及び、仕分け作業を一緒に取り組みました。

2022年度作業収入実績として、236日間稼働/472万円でした。

利用者

基本通所時間 8時00分～16時45分（移動時間を含む）

通所曜日 月・火・水・木・金（祝日は除く）

作業時間

9時00分～16時00分（ホームケルン企業内作業）

作業実績

- ・「施設外就労」として、安全な作業環境を確保する為に利用者同士で声の掛け合いを徹底しチームとして協力し、作業に取り組むことができました。
- ・チームとして取り組む利用者間の人間関係の変化についても、その都度ミーティングを行い、コミュニケーションを通して対応することができました。
- ・利用者個人の就業日を増やすなどして、モチベーションをアップすることが出来ました。
- ・利用者以外にも、社会福祉士養成学生等のソーシャルワーク実習（体験実習の機会の場合として）にも有効活用できました。
- ・コロナ禍で稼働を続けるにあたり、換気や蜜にならないように人との距離を確保、手指消毒の徹底、食事時の黙食等に取り組む、感染の予防に努めました。

啓発（就労継続支援B型）

内容

2022年度はコロナ禍でも前向きに取り組んできました。

日々の取り組みを機関紙、たより、ブログなどで発信。また地域での働く姿を通し、地域の中で「ともにある」を発信し続けることができました。

地域の事業所と一緒に大きな要望をする国会請願署名・募金運動では、個々で署名・募金を集めることができました。

作業実績

- ・日々の取り組みで、機関誌やたよりの発行、ホームページやブログなどでの情報発信を行いました。
機関紙/年2回・たより/年5回・ブログ/毎月
- ・エコボール活動ではボールの受取りや納品時に野球部員たちとの交流を通して、つながりも強くなりました。
- ・地域の講師派遣では、城南菱創高校に計4回講演に行くことができました。
職員2名・利用者4名参加
- ・きょうされん利用者部会などリモートで参加、事業所紹介活動などを行いました。
- ・国会請願署名・募金運動では、利用者・職員で内容について理解を深め、個々で署名活動・募金活動を行いました。

支援者実習

- ・実習委員会から実習についての情報発信を行い、実習日誌のコメント記入に現場の職員が関わるなど、実習受け入れ体制の構築にも力を入れました。
また新カリキュラムでのソーシャルワーク実習にむけてプログラムの改訂を実施しました。
社会福祉士養成の実習生として9名の学生を迎える事ができて、学びの場となりました。
新たなつながりとして大阪歯科大学の学生を受け入れることができました（社会福祉士実習）。
24日間という長期間の実習に取り組んだ実習生は非常に深くかかわる機会があり、自己そして家族、友人、学校、地域へと持ち帰り啓発活動につながりました。実習生の受け入れは、利用者、実習生、職員、それぞれ交互に学び合って成長する良い機会になりました。
- ・ボランティア体験や福祉体験などの取り組みも継続して実施しました。
京都文教大学からは、6名の学生さんがボランティア演習として、一緒に活動することができました。

2022年度事業報告と2023年度にむけて

2022年度は新型コロナウイルス感染防止の対応として個別的な対応は発生したものの、事業所を臨時閉所することなく進めることができました。また世界的な混乱から発生する情勢不安から影響を受ける物価や資材の高騰への対応は、行政や近隣の事業所とも連携をとりながら現況調査をはじめとする必要な手立てを進めてきました。引き続き影響などを検証しながら対応を進めていきます。

このような一年間ではありましたが、その都度相談し、工夫を凝らし、「多様な働き方を目指す」その実践に向き合ってきました。

先ずB型事業では、ここ数年部門の枠を越え融通性を活かし柔軟に進めてきた結果、新たな相互作用が生まれ、結果工賃アップにつながる事が出来ました。また新たな展開としては、ここ数年精力的に進めてきた京都市からの除草等管理業務の打ち切りが年度末に決まり、新たな展開を進めてく事になります。具体的には、宇治市役所8階でのカフェ業務の実施に向け担当課と関連団体含めて調整を進めています。コロナ過の影響によりあえてウエイト下げていた部門を再開し枠を広げていく事になります。

A型事業では、2021年度から継続的な課題とする独自の業務評価基準の運用を進めてきました。留意する事は、個別的に「できる・できない」の作業遂行能力ではなく、チームでの働きや挨拶など、働く姿勢に着目した基準としています。定期的なモニタリングを介しながら日常的なやり取りも進めています。効果としても徐々に表れはじめ、何よりご本人自身が自己評価を通して内発的に変化していく姿を感じられる事が嬉しいです。

ゆめハウス全体の活動としては、一年間様々な変化や制限が加わる中、事業所らしさを活かし制限のみではなく、できる事を相談し、そこに工夫を加えて変化させてきました。

具体的な取り組みとして印象に残るのはやはり少人数で実施した日帰り旅行やお買い物、また共通の趣味に充てた企画です。感想で「次の旅行は一泊旅行も加えよう」など皆で相談しているのがとても印象的でした。

私たちは共に生きるための社会制度の構築や環境・風土を実践から伝えていく事を日々の取り組みから知恵を絞り前向きな変化へとつなげていきます。

そして目の前の活きた実践を大切に、法人が理念とする「ともにある」のもと、活動を継続していきます。

クリーンねっと（就労継続支援A型）

全体

作業内容の変化にも対応しながら、日々の姿勢から作業の質まで向上することができました。

月1回のミーティングの場を活用し、日々の中での問題点・改善点など自分たちで話し合うことを大切にし、チーム作りや働く姿勢等個人のスキルアップ、積極性や自主性、意欲的な働きを身につけるように心がけました。B型から実習の受け入れもあり、A型として作業を教えること、見本となる事を意識しながら取り組みも進めてきました。また、チームワーク向上のためA型のみでの余暇活動も取り入れました。

独自の評価表（特別清掃への参加の有無等）をもとにモニタリングで自己の働きを振り返り、各々がA型としての意識を持って作業に取り組む姿勢が見られました。以前から掲げている「賃金の向上を目指す」という目標に則りさらなるステップアップを図ることに繋がりました。週20時間以上の勤務は継続し、新規業務へも積極的に参加し、雇用者としての自覚を持って日々の業務に取り組むことを目指し、個別支援計画をもとに進めています。

今後も継続課題として最低賃金の引き上げに伴った賃金支払いのバランスの確保が挙げられます。変動していく最低賃金の額に適応した賃金支払いに近づけていく事とあわせ、個別支援計画やモニタリングにおける本人との相談を通し、「多様な働き方」を継続し目指していきます。また、独自の評価基準に関して、1年を通してある程度感覚は掴めた為、業務内容の変化、週間の動き、ゆめハウス全体の動きに合わせて、評価内容を少しずつ変更していくことも検討しています。

利用者

A型利用者数 6名（2023.3.31現在）

B型利用者1名 A型へ移行（2022年4月より）

B型利用者のA実習（2人）

特別清掃時、専門機器を扱う利用者の増加。

基本通所時間 10時～16時

労働時間 週20時間以上30時間未満

通所人数 1日 4～6名

作業場所

- ・産業振興センター 全館清掃（日常清掃・特別清掃）
- ・宇治公園橘島公共便所清掃
- ・東宇治地域福祉センター（日常清掃・特別清掃）
- ・円蔵院
- ・サクラハイツ
- ・ライオンズマンション宇治第2（日常清掃・特別清掃）
- ・伊勢田地区公園除草作業（5ヶ所）
- ・小倉明星園デイサービスセンター（日常清掃・特別清掃）
- ・大山医院（日常清掃・特別清掃）
- ・広野デイサービスセンター（特別清掃）
- ・その他 特別清掃依頼に対応（年間1～2回）
- ・京都府宇治総合庁舎（特別清掃）
- ・京都市住宅供給公社除草作業（1ヶ所）

ゆめハウス（就労継続支援B型）

新型コロナウイルスによる制限が緩くなり、活動の幅が少し戻ってきました。まだ完全に収まったわけではありませので、注意を払いながら取り組みを進めてきました。年度途中で皆勤手当もでき、それを目標に休まない事を意識する利用者も現れました。

前年度から始まった京都市市営住宅（向島5街区、淀際目）の除草作業2年目となり、年間を通して実績をあげられ、住民の方からも喜んでいただきました。利用者にとっても外作業として草刈りに積極的に取り組まれており、自分の役割としてやりがいを感じておられる方もおられました。敷地内に捨てられているゴミも、定期的に手入れをしているので、初めて作業に入ったころに比べるとずいぶん減り、いい効果を生み出すことができました。

ゆめ会議は利用者の中から実行委員を募集し、その中から立候補で4名が出られました。職員が入りながら4名の委員が中心となって、事前にミーティングを行い、アンケート作成や会議の進行、記録などを分担し行いました。秋にはレクレーションを企画し、BBQ、ショッピング、ボーリングに分かれて楽しんだり、クリスマス会のゲームを企画したりしました。2023年度も引き続き、会議の中で3名立候補、後日1名立候補がでましたので、4名の委員を中心に仕事、余暇を盛り上げていけるよう自治会を作っていきたいと思ひます。

日帰り旅行は前年度と同じくグループごとに分かれての実施となりました。ミュージカルやグランドゴルフ、USJやニフレル（動物）や天橋立（BBQ）、プロ野球ナイター観戦など幅広くコースが分かれ、それぞれのコースで楽しむことができました。新型コロナウイルスのよる日程変更などはなく、予定通りに実施することができました。少人数で楽しむことの良さを改めて感じるすることができました。

新年会は平日の日中活動終了後に、夕方からお店で飲食するという以前のような形で行いました。今回は20歳を迎えられた方がおられましたので、「成人の祝い」と形でお祝いし、利用者とその家族もいい経験ができたとても喜んでおられました。

清掃では前年度から通常清掃は引き続き実施し、加えて地元企業（清掃会社）との連携ができ宇治市の施設（西宇治公園プール清掃）の清掃を行うことができました。また施設外実習ではCoco 壱番屋で開店の準備、厨房作業などを引き続き体験を重ねることができました。また大きなイベントでの要員に入ることもあり、本人にとって活躍の場が広がっています。そうした実績の積み重ねによりさらにもう1名実習の受け入れがありました。

10周年記念事業の中で啓発を目的とした絵本『トビウオくん わかんない』（法人理念を主とした内容）を使用した活動は2022年度の実施はありませんでしたが、市民ギャラリーなどでPRを継続しています。

2023年度は京都市の除草作業が無くなり、新たに市役所でのカフェ事業が始まります。取り組みとしては大きく変わっていきますが、また新たに多くの人とつながりの作れる場としても活用し、「知る」ことの拡大にもつなげていきたいと思ひます。

利用者

B型利用者数 31名(2023.3.31現在)

A型実習体験者数 8名(通常清掃、特別清掃含む)

A型からB型へ移行 1名(7月～)

施設外支援 2名

基本通所時間 10時～16時

通所人数 (月～金)14～17名/日 (土)4名/日

作業内容

- ・ゆめカフェ(毎週金曜日)
- ・工房
- ・出張喫茶(物品販売)*出店販売年間113回
- ・通常清掃 5ヶ所+A実習1ヶ所
(京都市営住宅除草作業、服部医院、森田ビル<7月で終了>、宇治市役所除草、米坂墓地)
- ・【A実習】・宇治公園橘島公共便所清掃 ・特別清掃 1か所(西宇治公園プール清掃)
- ・リサイクル(古紙、プルトップの回収、販売・海外リユース<食器類等>)
- ・製菓
- ・企業実習

エコボール（硬式野球ボールの修繕）

協力学校・チーム

【新規 3チーム】

- ・大阪産業大学
- ・奈良県立香芝高校
- ・高槻リトルリーグ
- ・岐阜中濃ボーイズ
- ・寝屋川中央リトルシニア
- ・春日井ボーイズ
- ・大阪学院大学高校
- ・高槻オールブラックス
- ・B-BACKS
- ・東近江バイオレッツ
- ・枚方ボーイズ
- ・姫路西リトルシニア
- ・夢道場ワールドベースボールアカデミー
- ・大正白稜高等学校

年間修繕数

2022年1月～2022年12月

898球

評価

2022年度は新規で3チームとの繋がりを持つことができました。現在3チーム加盟され合計14チームとなっております。その中で、定期的にボールを預けて頂いているのは8チームほどになります。

2022年度の大きなこととしましては、3年ぶりに「エコボール全国集会」を開催することができたことです。当日は、全国から17事業所49名が集まり、日本プロ野球OBクラブの八木澤理事長はじめ、京都府・京都市・宇治市の各担当課の部長、課長にもお越し頂き、エコボールの取り組みについて知って頂く良い機会になったと思います。ゆめハウスからは3名の利用者さんが参加し、いつもとは違う雰囲気味わうなかで、エコボール作業のモチベーションも上がったようです。

前年度から引き続き、全国の他事業所からはたくさんの問い合わせがあります。その都度、見学に来て頂き、ゆめハウスの利用者さんと一緒に作業をしてもらうことで実際に作業は可能かどうか判断してもらっています。エコボール事業が年々全国に広まっていくにつれ、より事業所間で連携をとり、本来の目的や効果がぶれないように共有し合っていきたいと思っています。

工 房（自主製品）

さをり製品

- ・シヨール（京都府敬老祝い品）45枚
- ・染め和紙織り（念珠入れ・通帳入れ・名刺入れ・ティッシュケース・コースター）
（コースター）
- ・発注元 いたるセンター（ほっとはあとセンターより）900枚（300枚×3回）
- ・宇治市人権啓発物品 740枚（300枚、440枚）
- ・宇治市 30枚
- ・コミュニティーワーク木幡 300枚
- ・糸製品としてランチョンマット、コースター、マフラー

*ぶらり嵐山、うじ・はんどめいどショップ、各種出店等で販売

刺し子製品

（ふきん）

- ・中山東町内会 101枚
- ・伊勢田学区福祉委員会 145枚
- ・ゆめハウスより年末御礼品として 70枚

（ハンカチ）年末お礼品・干支（卯）

- ・キョーシンオート 50枚
- ・おもてなし処阿咩 20枚

（手ぬぐい）

- ・天ヶ瀬苑 40枚
- うじ・はんどめいどショップ、各種出店で販売

染め製品

（ミニはんかち）

- ・京都府山城広域振興局より 2000枚

（はんかち）

- ・京都新聞社会福祉事業団 880枚

その他

- ・箱編み製品（マフラー・帽子・ネックウォーマー・レッグウォーマー）
- ・手編み製品（座布団・アクリルたわし・ペットボトルカバー）
- ・NaNairo ストラップ ポチ袋
- ・クリスマスツリー 50個

評価

さをり織りの和紙が今まで購入していたところから入手できなくなってしまいましたが、新たにつながりのできた藤次郎商店から障子紙の購入また端切れを提供していただけるようになり、引き続き「切る」「折る」などの準備段階の作業を途切れることなく、継続出来ました。またさをり織りのできる利用者が増え、コースターのストックの余裕ができるようになり、製品募集の際に多めの数で応募、採用されることのできる様になりました。

宇治のキャラクターである「チャチャ王国のおうじちゃま」の刺し子製品を嵐山ほっとはあとセンターで置かせてもらい、コースターと合わせて宇治、京都をイメージしたお土産品としてアピールしていきます。

ゆめカフェ

実施曜日 毎週金曜日（月4～5回）

実施時間 11:30～14:00（ラストオーダー13:30）

利用者 6名ほど

- ・1日およそ30食程度の食数が出ます。
- ・2012年から始めて10年目になります。

評価

物価高騰によりランチの価格を11月から100円値上げしました。値上げした分さらに満足していただけるよう、質も量も工夫しながらランチを提供しています。

仕入れ、前日の仕込みに利用者も携わり、食材の選び方や調理道具の使い方などを学び、料理に関する経験を重ねています。

また企業実習に行く利用者にとっても、接客や掃除、準備などの職員がつきながら教えられる練習の場としても有効に活用できています。

日々の衛生管理チェックで備品の不備に早く気づくことができ、すぐに対応できました。今後も引き続き、食の安全に注意を払いながら、お客様に喜んでいただけるランチを提供していきます。

コロナウイルス感染症の予防対策として、お客様の入店人数制限、スタッフ・利用者の健康チェックをしっかりと行い、週1回のカフェ業務に取り組むことができました。

- ・2021年6月～HACCP導入運用が完全義務化となり、前年度から準備し着実に進めていた衛生管理表を作成し毎日記録チェックをし、記入作成も習慣化され、スムーズにスタートすることができました。引き続き今後もしっかりとHACCPを運用していくように心がけていきます。

製菓・出張喫茶(一部物品を含む)

- ・心身障害者福祉センター（京都府社会福祉事業団）
（新型コロナウイルスの為実施無し）
- ・介護教室(宇治市小倉明星園)2022年4月より月1回（第2木曜日）で再開
年間12回
- ・宇治市役所 販売年間17回
- ・オープンカフェうじ 年間9回
- ・山城広域振興局 6回
- ・生涯学習センター 水・土 年間45回
- ・事業所や個人様からの依頼によりお菓子の委託販売
- ・その他出店 宇治市植物公園販売、うじ・はんどめいどフェア（Izumiya）、
あさぎりフェスタ、ここからチャレンジマルシェ・わんさかフェスタ
やまがき市、深草100円商店街、わんさかフェスタ、オレンジパープル
北野参道市場等

評価

2022年度も新型コロナウイルスの影響で、販売が再開できない場所もありましたが、概ねイベントなどが再開されてきましたので対策を行いながら、また新規で参加したイベントもありました。ソフトクリームマシンの寄贈があり、ゆめカフェや出店でのバリエーションの幅が広がりました。

製菓作業では携わる利用者が増え、また販売や宇治市から新規の受注などもあり、製菓作業の回数が増えてきました。作業に取り組むことも増え、個々の得手不得手な部分を補い合いながら、やりがいを感じ仕事として意識することができるようになってきています。